

2026年5月米CPI (消費者物価指数)

<結果概要>

・米5月CPI(総合)は、前年同月比+4.2%(4月:同+3.8%)、変動の大きい食品とエネルギーを除くコアCPIは、同+2.9%(4月:同+2.8%)と伸びが加速したが、いずれも市場予想と一致した。一方で、前月比では、総合は+0.5%(4月:同+0.6%)、コアは+0.2%(4月:同+0.4%)ととも伸びが鈍化しており、コアに関しては市場予想を下回る結果となった。

・CPI(総合、前月比)の寄与度別内訳では、中東情勢の不透明感が継続するなかで原油高を背景として、エネルギーは+0.290%と小幅に伸びが加速し指数の押し上げ要因となった。コアサービスは前月に政府閉鎖の影響によって歪められた住居費の伸びが落ち着いたことから、+0.177%と伸びが鈍化した。食品は+0.021%と伸びが鈍化した。コア財は▲0.022%と約1年振りに下落に転じており、新車や家具・寝具、医療用品などの価格が前月から下落するなど、関税の影響による価格上昇圧力が剥落している様子が示唆された。

・総じてみると、5月CPIは、市場予想からの上振れはみられず、エネルギー価格のコアインフレへの波及が限定的であることや関税の影響の剥落なども示唆される結果となった。一方で、実質賃金が前年比▲0.7%とマイナス幅を拡大していることから、家計の購買力低下を背景とした低所得者層を中心とする先行きの消費の減少には注意を要する。

<米3月CPI(消費者物価指数)結果>

(単位:%)

	4月分	5月分	市場予想(5月分)
CPI(前月比)	0.6	0.5	0.5
CPI(前年同月比)	3.8	4.2	4.2
コアCPI(前月比)	0.4	0.2	0.3
コアCPI(前年同月比)	2.8	2.9	2.9

<寄与度別内訳(前月比)>

(単位:%)

主な項目	4月分	5月分
全項目	0.600	0.473
コアサービス	0.301	0.177
(うち住居費)	0.214	0.112
コア財	0.006	▲0.022
食品	0.068	0.021
エネルギー	0.270	0.290

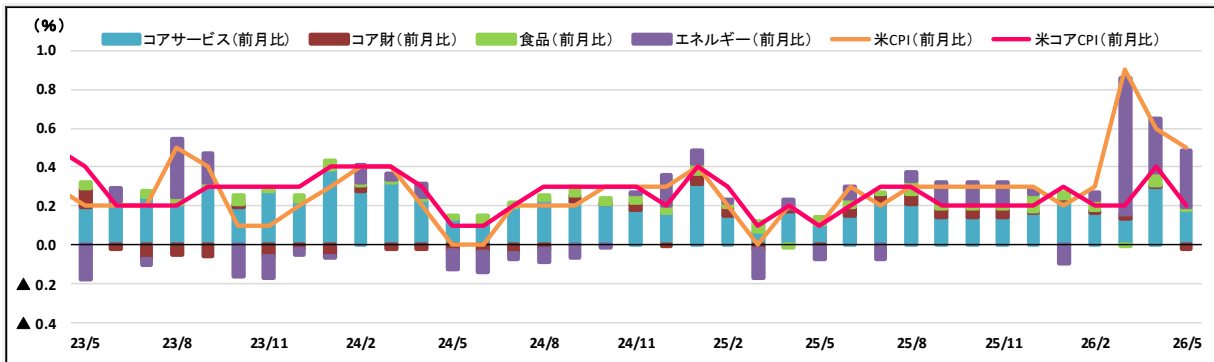
CPI(消費者物価指数)とは

・米国の消費者物価指数は、家計が購入する財・サービス価格の平均的な変化を測定する月次の物価指標であり、調査は衣類や食品等をはじめとして200以上のカテゴリーで実施される。

・全体の物価の変化率を示す「総合」と変動の大きいエネルギー関連指数や食料品目を除いた基調的なインフレの動向を示す「コア」に分けられる。

・FRB(米連邦準備制度理事会)は、「物価の安定」と「雇用の最大化」を目標に掲げていることから、金融政策の動向を見極めるうえで米CPIは非常に注目度が高い。

<CPIチャート>



出所:米労働省、Bloombergより足利銀行資金証券部作成

<市場動向>

米国金利

米国金利は、コアCPI(前月比)が市場予想を下回る結果となったことで過度なインフレ懸念の緩和から米金利は低下したが、トランプ大統領がイランの交渉姿勢を非難して、攻撃再開を示唆したことで金利上昇に転じ、長期金利は前日比+0.035%の4.552%で引けた。

ドル/円相場

ドル/円相場は、CPI公表後の米金利低下を背景に一時160円33銭まで下落したが、中東情勢を巡る不透明感が高まるなかで有事のドル買い圧力が強まり、160円台半ばまで上昇した。

米国株

米国株は、取引開始後は買いが先行したが、中東情勢の不透明感の高まりや足許でみられるAI・半導体関連株への高値警戒感、12日に控えるスペースXのIPOに向けた換金売りなどから、主要3指数とも下落した。

	6月9日	6月10日	前日比
米国長期金利(%)	4.517	4.552	+0.035
ドル/円相場(円)	160.36	160.55	+0.19
ダウ平均株価(ドル)	50,872.11	49,918.78	▲953.33
S&P500(ポイント)	7,386.65	7,266.99	▲119.66
NASDAQ(ポイント)	25,678.82	25,169.50	▲509.32

※本資料は情報提供を目的として作成した参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料の内容は発行日現在のものであり、将来予告なく変更されることもあります。本資料は信頼できると考えられるデータに基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料は証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではなく、将来の市場環境等を保証するものではありません。